



第10回 「太宰府古都の光」(9月25日開催)

*太宰府市民政庁まつり (10月3日開催予定)

*九博ボランティアフェスタ (10月11日開催予定) に向けて

今年は、九博開館10周年記念関連イベントとして九博ボランティアフェスタが予定され、例年以上に事業委員会、会員の皆さんには頑張ってもらったことになりました。

*第10回「太宰府古都の光」を終えて

今年も影絵による人形劇と光のオブジェで九博の点灯式会場を彩りました。そんな中、九州国立博物館開館10周年記念イベント、アジア人形劇フェスティバルが去る8月8日(土)～9日(日)開催され、本場インドネシアの影絵人形劇「ワヤン・クリ」が上演、大変好評でしたがご覧になりましたか？



九博を愛する会が最初(平成19年)に影絵に取り組んだ切掛けがインドネシアの「ワヤン・クリ」でしたので、当時一緒に取り組んだスタッフは、特別な思いで観覧されたと思います。

あれから9年、毎年「太宰府古都の光」他で影絵による人形劇を演じ、「天神さまのものがたり」を始め、創作した人形達も70～80体近くになりました。その影絵人形が普段眠っている、影絵グループの里を今回はご案内します。そこは太宰府小学校近く、御笠川沿いの春は桜の名所、大町公民館(古民家)です。地域の皆さんのご理解もあり、毎年その座敷等を利用して人形作りと練習に励み、人形の保管も戴いています。今年も九博開館10周年を記念して演目は「九博の絵本から はらのなかのはらっぱで」と昨年好評の「水城跡のものがたり ひとつこ山と父子鳴」を練習の成果もあり一段とレベルアップして演じることが出来ました。人形作成時の写真(左)では上手く表せませんが、練習時の熱気、雰囲気は「影絵による人形劇を、ここ太宰府にいつまでも!」と云う思いを強く感じる昨今です



光のオブジェ作りは今年も九博西側に太宰府東小学校児童、星ヶ丘保育園園児が描いた紙灯ろうが並び、家族で訪れた児童から自分の絵灯明を見つけて歓声が上がるなど微笑まじさが漂う中、点灯式会場では九博開館10周年を記念した大きな灯籠に、写真のように太宰府高校芸術科（書道専攻・美術専攻）の生徒の皆さんが本当に素晴らしい「書」と「九博の宝もの」を描いて下さいました。また大灯籠の前には九博関係者（九博職員、九博



ボランティア、愛する会スタッフ）がそれぞれ九博開館から10年の思いを絵灯明として描いていただき、その絵灯明を九博10周年のロゴマークをイメージして並べています。写真でお分かりいただけますでしょうか。また、今回は日本経済大学の学生職員の皆さんにもオブジェセッティング作業に参加頂きました。紙面をもって御礼申し上げます。この大型オブジェ、好評につき太宰府市民政庁まつりに再登場します。10月3日（土）、お会いしましょう！

* 太宰府市民政庁まつり（10月3日 開催予定）

毎回、数万人の方が訪れるこの賑やかなイベントを今回、九州国立博物館は開館10周年記念PRの良き機会ととらえゴスペル隊も編成されます。

また、先に開催の「太宰府古都の光」で好評の「九博開館10周年記念大型オブジェ」を展示PR活動に活かせることになりました。九博を愛する会もテントブースで盛り上げます。

* 九博ボランティアフェスタ（10月11日 開催予定）

九博開館10周年記念事業として九博ボランティアが開館以来めざしてきた、来館者サービスの向上と地域市民との交流を深めるため「九博ボランティアフェスタ」が開催されます。

私たち「九博を愛する会」は九博研修室を会場に影絵による人形劇「九博の絵本からはらのなかのはらっぱで」を演じ、子ども達と一緒に人形作成のワークショップも楽しんでいただきます。

平成27年9月28日 事業委員会 松岡良一

ピッカ美化隊活動近況（期待 苦節 楽しみ）

今年度より当隊は月に一回の活動に変更しておりますが、開館以来継続している花壇とプランターの植栽管理維持は随時に実施しています。

この夏も、ポチュラカを植え付けました。植栽後は順調に成育し、隊員により雑草の間引き等をしながらこのまま成果（盛花）を楽しむだけと楽観していましたが、雨明けとたん猛暑日照りで一転、水切れ状態が続きました。これに救世主登場、隊員M氏が秘かに対応され回復。今夏が最高と言える花つきが実現。シーズン中の来館者の皆さんに癒しを提供できたと満足しています。

次の 冬・春用の植栽も目前です。会員の皆様方 作業に参加されませんか。



平成27年9月17日 ピッカ美化隊 橋本久弥

総務委員会報告

九州国立博物館を愛する会総務委員長 田中 宏明

先日の特別観覧例会（大英博物館展）には180名をこえる会員の方々に参加いただき大変な盛り上がりを見せました。総務例会の設営者として大変嬉しく思いました。ありがとうございました。なかでも今回の企画は、世界の博物館の中でも名の知れた展示物の数々。それらがここ、九州国立博物館に展示されたことは、これからも多くの人々の記憶に残る特別展ではなかったかと思えます。またそして10月の『美の国日本』も、みどころ満載です。是非、この機会に知人、友人を誘って九博に足を運んでください。そしてさらに今年には九州国立博物館の開館10周年でもあります。まだまだベールに包まれた様々な企画も計画されているようです。館とも連携をとりながら会員の皆さんに発信していきます。乞うご期待！

最後になりますが、愛する会も来年は10周年を迎えます総務委員会では既に法人格取得にむけ取り組んでいます。先月には理事メンバーを対象に福岡県NPO・ボランティアセンターより講師を招いてNPO法人への具体的な手続きについて勉強会を開催いたしました。

節目の年に更なる飛躍を遂げられるよう準備してまいりますので、皆様方からの引き続きのご協力をよろしくお願い申し上げます。

ブランディング委員会報告

カルタ大会趣意書

ブランディング委員会 石井大浩郎

私たちの生活拠点である「つくし」の地は、言うまでもなく全国でも有数の歴史の宝庫です。そのかけがえのない価値を知り、保存や活用について考え後世に伝えていくことは、この地域で生きる私たちの大きな責務であり、愛する会もまさにそんな10年を歩んできたことと思えます。

委員会ではその名の示す通り、ブランディングという意味を掘り下げるべく、まずその学びの場として「ブランディングセミナー」を開催しました。そのセミナー冒頭に「過去、企業や組織がこのブランドを創造しようとする時、『よし、我が社のブランドはこれで行こう』と会議で決定し、それから様々な広報媒体でそのブランドイメージを発信、そのイメージ付けを行うというものだった。しかし今日のブランディングという認識は、ブランドイメージを打ち出したい側にその決定権は無く、あくまで顧客や対外的な視点にのみ支配されるもので、主体者がそのイメージをコントロールしたいのなら、その主体者自身がそのイメージをしっかりと自覚・発言・行動、そして発信する必要がある。」との事でした。

その観点から、私たちが始めるブランディングとは、この10年の礎のもとに次の10年、20年先の未来に資するものであるべきと考えた次第です。そしてそのツールとして今回、古来より日本伝統の遊びでもある「かるた」を取り上げることとしました。

みなさんご存知の「かるた」は平安時代の「貝合わせ」に始まり、ポルトガル人の影響を受け、16世紀ごろ、なんと筑後の三池で作られたといわれています。トランプやタロットカードの仲間とも言えますし、現代の子供たちが夢中になってやっているカードゲームもその最新版といえるのかもしれませんが。但し、不思議な事に「かるた」というゲーム形式は日本にだけしかないのです。眺めたり、詠んだり、触ったり、五感を使って遊ぶこと。

これは世界に類を見ないカードゲームという事になります。なかでも「郷土かるた」とは郷土の代表的な自然、歴史、産業、文化を詠んだものです。この「郷土かるた」を使って、日本独特の遊びをしながら地域の事を学ぼうというのが我々の目的です。また老若男女がともに遊べる「かるた」は大人から子どもへ、おじいちゃん・おばあちゃんから孫へ、世代を超えて一緒に遊びながら大切なものを伝えていく。そういったことができる数少ないツールであると考えます。

本年度は主に筑紫地区に住む子どもを対象に、この地域の自然・歴史・文化を学び、郷土を愛する心を養う、地域特性を活かした事業を開催したいと考え、かるたという伝統の遊びを通じて、筑紫地区の魅力や日本人としてのルール及びマナーを学ぶこと、また歴史や文化を学ぶことの楽しさを伝えること。これを目標として委員会一同、頑張る所存です。

題して『つくしの自然・歴史・文化を楽しく学ぼう！～ 小学校対抗かるた大会 』。

文字通り郷土の歴史を題材とした『かるた』を使い、各小学校毎の参加で競い合う大会とします。当日のお手伝い等、皆様のご協力を是非とも宜しくお願い申し上げます。

第7回 九州ご当地博物館探訪



いのちのたび博物館(北九州市立自然史歴史博物館)

広報委員会 松山 勝利

今回は日本近代化のシンボル官営八幡製鐵所(先般、関連施設を含め世界遺産に登録)その中心に位置する1901年創業の東田高炉跡を間近にし、そしてスペースワールドのすぐ横にある子ども達に大人気の恐竜に会いに「いのちのたび博物館」を訪ねました。

当日はご多忙のなか、教育普及担当係長竹中雅則様に館の概要及びボランティア組織についてご説明頂きその後館内を見学しました。当館の前身は市内にそれぞれ分散していた市立自然史、歴史、考古各博物館を統合し「いのちのたび博物館」として2002年11月にオープンし更に2013年にリニューアルして今日に至っています。

常設展は自然史ゾーンと歴史ゾーンに分かれ、年3~4回ほど特別展も開催されるそうです。先ず1階の自然史ゾーンを見学、ここでは地球誕生から現在に至る自然と生命の歴史が理解しやすい様に古生代、中生代そして新生代と区分され、約4,500点の動植物標本、実物化石、岩石、鉱物、レプリカ等が展示されています。

しかし何とんでもこのゾーンで我々に圧倒的な迫力でその存在を誇示するのは巨大な恐竜たちです。世界で最も有名なティラノサウルス・レックス、そして全長35メートルのセイモサウルス、それに世界最大の翼竜ケツアルコアトルスなど、ただただ私は驚きそしてある種の感動すらおぼえました。



次に洞窟へ入るとまるで中生代にタイムスリップ(何が出てくるのだろう・・・子ども時代に帰ったようにわくわく)ここはエンバイラマ館です。洞窟を抜けると中生代・白亜紀の北九州を再現360度体感型のジオラマ、遠くに火山の噴煙恐竜たちがさかんに動きまわってのどかな風景、突然火山の大爆発、溶岩流で地上は覆いつくされ、噴煙で暗黒の世界そして恐竜たちは死滅。こういう幾多の変遷を経て今日の現在我々の住む豊かな地球があるのですね。改めて地球環境等について考えをめぐらす良い機会になりました。

次の歴史ゾーンは大陸や朝鮮半島に近く、本州と九州の接点に位置する北九州地域の歴史や人々の暮らしの変遷を、約1,500点の歴史資料をもとに展示・紹介されています。弥生時代と昭和30年代の家族のくらしが再現されています。現在の豊かな生活しか知らないあるいは教科書でしか知らない子ども達にとって昔のくらしぶりを知り、体感出来る良い機会ではないでしょうか・・・



次にボランティア活動についてですが、当館ではシーダー（*Seeder*：種をまく人）という呼称で現在56名が登録されています。しかし、それぞれの都合により活動時間が異なるため、定期的に活動している方の数は半数ほどになるとの事。



主な活動内容は（1）展示案内グループ （2）講座補助グループ （3）演示グループ 大きく分けるとこの3グループになりますが、その他資料整理補助組織もあります。シーダー登録には館が実施する養成講座を受講し、館が定める課程を終了することが必要になります。登録期間は原則2年間、登録更新は4回（10年）を上限との事。どこのボランティアにも共通の事でしょうが、やはり高齢化が一番の悩みだそうです。当日は時間がなくボランティアの方々との交流が短時間だったのは残念でしたが、皆さんベテラン揃いで自信と誇りを持って活動されているのが印象的でした。

また、館外の市民ボランティアさんでは「野ばらの会」というのがあり、玄関前のバラ園の管理を担っていただいているそうです。種・肥料などの購入は館が負担していますが、剪定・育成などの作業をボランティアで行っているそうです。わが愛する会も「ピッカ美化隊」という館周囲の定期清掃や花壇の管理を継続的に行っていますね。

今回の訪問は私にとって大変楽しく、有意義なものでした、というのは今迄いろんな博物館を見学しましたが、「楽しく見て、知って、考え学べる そして聞かたび新たな発見と驚き」をモットーに工夫された展示空間、時間軸が明確で大変わかり易い、また行ってみたい博物館でした。

ここでお知らせ



※ 愛する会交流委員会主催の親睦旅行「長府城下町散策と北九州見学 日帰りのたび」が11月29日（日）に企画されております。「いのちのたび博物館」では2時間とっています。お申し込みは、同封のチラシ裏面に書き込みFax でお願いたします。

いのちのたび博物館

〒805-0071 北九州市八幡東区東田2-4-1

JR 鹿児島本線スペースワールド駅 下車徒歩5分

北九州都市高速道路 東田出入口から車で2分



害虫駆除期間は、毎年6月下旬頃（約1週間）です



ご利用案内

開館時間

9:00 ▶ 17:00
(入館は16:30まで)

休館日

年末年始・害虫駆除期間

観覧料(常設展)

- ▶ 大人……………500円(400円)
- ▶ 高校生以上の学生……………300円(240円)
- ▶ 小中学生…200円(160円)
- ▶ 小学生未満…無料

※()内は30名以上の団体料金

特別展

美の国

JAPAN.
COUNTRY
OF
BEAUTY

日本

への誘い

平成27年 10月18日〔日〕 ≫ 11月29日〔日〕



九州国立博物館展示課長 楠井隆志

平成17年（2005）10月16日、九州国立博物館は、市民の皆さまの熱い期待と温かい応援のなか、アジア諸地域と日本の文化交流の歴史を見つめるというコンセプトをかかげて開館しました。開館記念特別展として『美の国 日本』を開催し、約44万人のご来場をいただきました。以来、「学校よりも面白く、教科書よりもわかりやすい」をモットーに、市民の皆さまに親しまれる博物館を目指して活動してまいりました。

平成27年10月、開館10年という節目を迎えるにあたり、第41回目の特別展として、ふたたび開催いたします。あえて開館記念展と同名とさせていただきます。なぜなら、『美の国 日本』という名称の響きが美しく、市民の皆さまにとってはこの言葉そのものが九州国立博物館の開館を語る言葉になっているからです。

古来日本人は、外国の進んだ文化や新しい文物に憧れ、選択的に取り入れてきました。それを前代のものと巧みに融合させ、新たな「日本の美」として造りあげることに長けていました。この展覧会は、縄文時代から鎌倉時代にいたるまでの日本美術の名品をご覧いただき、「日本の美」が成熟してゆく歩みを象徴的に見渡してみようとするものです。さらに、奈良や京都といった都中心の美意識だけを追うのではなく、列島周辺地域の琉球や蝦夷地で育まれた独自の美の世界もご紹介いたします。

企画にあたっては、つねに歴史の教科書を意識しました。作品は、歴史の教科書や資料集の図版、あるいは切手の図柄などで誰もが一度は目にしたことのあるような、よく知られたものをなるべく集めてみました。目指したのは、歴史教科書のビジュアル版展覧会です。火焰型土器や遮光器土偶、絵画銅鐸、螺鈿紫檀五絃琵琶などの正倉院宝物、王羲之や三跡の書、美しい平安仏画、リアルな肖像彫刻など、教科書の中から飛び出してきた美しい実物と向き合っていただくことで、日本文化の成り立ちや東アジアの歴史に関心をもつ、そのきっかけとなればと願っています。

琉球やアイヌの人々もまた、大陸や日本列島本土との交流の中でそれぞれ固有の歴史と文化を築き上げてきました。しかし、それぞれで育まれた美の世界については、残念ながら教科書で取り上げられることは少ないようです。「琉球の美」と「アイヌ



国宝雲中供養菩薩像(南一号)
平安時代・11世紀 京都・平等院所蔵
展示期間：11月10日(火)～11月29日(日)

の美」を対極的にながめ、新しい「美の国 日本」像を描く試みとしたいと思ひます。琉球やアイヌの文化への眼差しは、九州国立博物館が開館以来大事にしてきたものであり、次の10年も、しっかりと持ち続けてゆくつもりです。

日本には、古くからアジア諸地域との文化交流のなかで独自の美を育んできた歴史があります。それは、日本がアジアの文化を尊重してきた歴史ともいえます。この展覧会がそのことを再確認していただく機会となればと願っています。



山笠・美の国日本



トピック展示はミニ特別展

九州国立博物館開館10周年記念・「推定客館跡」特別史跡大宰府跡追加指定記念トピック展示

新羅王子がみた大宰府

2015.9/22(火祝) → 11/29(日)

近年の大宰府市教育委員会による発掘調査で、「遠の朝廷（とおのみかど）大宰府」の中央の道路である朱雀大路に面した場所（西鉄二日市駅北側）で大型の建物跡が確認されました。外国使節を迎えた『客館（きやくかん）』と推定され、特別史跡大宰府跡に追加指定されています。建物の遺構と共に貴重な出土品が次ぎ次ぎに発見されました。

本展覧会では、「遠の朝廷大宰府」が機能していた時代の天平勝宝四年（752）に来日した新羅の王子金泰廉（きんたいれん）が、約700名の使節団と共に大宰府に滞在した後、都にむかった足跡をたどります。交易品やその売買の記録、推定客館跡からの出土品など新羅と縁のある品々が展示され、外国との玄関口であった大宰府そして客館について感じることができる展覧会です。

展示期間

平成27年9月22日（火・祝）～11月29日（日）

展示場所

文化交流展示室 関連第1室

開館10周年記念イベント

平成27年11月3日（火・祝）

「推定客館跡」特別史跡追加指定記念講演会

新羅王子がみた大宰府

その他、いろいろな関連イベントが行われます。
詳しくは九博のホームページにて、確認してください。





米つくり隊 音藤広之

九州国立博物館開館 10 周年おめでとうございます。

私は、平成 12 年から約 5 年間九州国立博物館を愛する会の前身であります、九州国立博物館を支援する会の事務局に携わっていました。

国におきましては、九州国立博物館（仮称）設立準備室、県及び市におきましても国立博物館対策室が設置され、着々と建設工事が進められているところでした。



平成 14 年九州国立博物館（仮称）建設工事起工式の年に着工記念として、国博ウォーク I N 太宰府 2002 が開催されました。その時のコースに四王寺山を選定して、現地調査を行ったわけですが、その時の雨の降り方はどしゃ降りです。みんなずぶぬれでした。調査を終えて誰一人悔やむでもなく、その時の皆さんのすがすがしい笑顔が印象的で今も脳裏にやきついていきます。

その翌年、平成 15 年博物館建設現場の市民見学会のことです。当時の支援する会のボランティア部会の正副部長（深田・佐藤）さんと国、県、市、建設会社等の関係者へ度重なる、お願いや打ち合わせを行い、実現できたことです。現場には見学できる櫓まで造っていただき、大変感激しました。

いずれもみんなで事業を計画し実施していく喜びがあったからこそこのことではなかったと深く思い出に残っています。

平成 22 年に九州国立博物館 4 階の文化交流展示室で「稲づくりから国づくり」をテーマに稲作と金属器の普及について展示がされました。具体的にわかりやすく学習しようと九州国立博物館を愛する会から交流事業の話があり



「米つくり隊」が設立され 6 年目を迎えました。「米つくり隊」の活動内容は米づくり体験希望者を募集し、太宰府市北谷地域の棚田で、稲やサツマイモの栽培、案山子づくり、収穫後は餅つきなどの活動を行い、都市と農村交流を図るとともに、併せて休耕田を活用することで棚田の保全を図っています。

九州国立博物館を支援する会からの関わりを持てたことに感謝し、米つくり隊でできることを一歩ずつ進めていきたいと思えます。

平成 27 年 9 月 17 日

編集後記

九月二五日（金）夜、九州国立博物館は太宰府「古都の光」の灯籠に美しく彩られました。九博を愛する会と九博ボランティアがデザインに工夫を凝らし、今年は事のほか見ごたえがありました。また影絵も猛練習の甲斐があつて素晴らしい出来映えで、お客様からお褒めの言葉をいただきました。

これを皮切りに、今秋は九州国立博物館では開館十周年記念のイベントが目白押しです。特別展『美の国日本』、トビック展示「新羅王子が見た大宰府」、きゅーはく開館十周年記念感謝祭、各種講演会、音楽の催しなど、九博ホームページやちらしなどで情報をゲットしてお見逃さないように、九博を楽しんでください。

（t・s）

